

輸血部ニュース

発行：広島大学病院 輸血部

編集：輸血部長 藤井輝久

内容に関するお問い合わせ：

5581（輸血部長室）または teruchan@hiroshima-u.ac.jp

こんなときどうする？ 輸血に関する Q&A

輸血は平成 17 年発令の「輸血療法の指針」に則り行うことが、厚労省より推奨されています。しかし、国の指針ですから、個々の施設の事情に合わせておらず、詳細等については、各施設で「輸血実施手順書」を作成し、それに準じて輸血を行います。

本院の「輸血実施手順書」は、「輸血療法マニュアル」として、電子カルテの院内 WEB に格納されていますので、そちらをご覧ください。また、白衣等のポケットに入れていつでも見ることができるよう「ポケット版（要約版）」も作成していますので、ご入り用の方は、輸血部までお知らせ下さい。

本院の輸血療法マニュアルの中で、誤解が生じやすい事項、あるいは輸血過誤に繋がる事項について、紙面にて説明を致します。

1. 製剤を輸血部から搬出したが使用しなかった場合はどうすればよいか？

輸血製剤は厳密な温度管理が必要で、「輸血療法の指針」のⅦ実施体制のあり方、2) 輸血用血液の保管方法 にも、明記されています。ですから、手術センター以外（病棟や SICU、外来など）では、輸血する直前に製剤を搬出し、速やかに使用開始して下さい。

そうすることで、不要な製剤搬出を防ぐことにつながります。万が一、不要になった場合には、搬出後 1 時間以内に輸血部へ返却をお願いします。本院では、輸血製剤の有効利用、廃棄血の減少のために他患者へ

の転用を行っています(どの病院も同じです)。しかし、転用された製剤が、「きちんと保管されていなかった」製剤であったら、患者さんはどう感じるでしょうか？ 是非想像して見て下さい。

手術センターには、温度管理をしている輸血専用保冷バッグ(図 1)に入れてお渡ししますので、使用までそのバッグ内で保管をお願いします。なお手術終了後、未使用製剤は患者と共に HCU や病棟に持参せず、一旦輸血部へ返却して下さい。保冷剤を入れていますが、24 時間しかもちません。そのため、忘れ去られて放置されることを防ぐためです。

【図 1】手術センター用輸血専用保冷バッグ



血小板は 20~24℃で保管することとなっていますので、保冷バッグ等に入れて搬出することができません。ですから、搬出後未使用にならないよう、輸血直前に搬出をお願いします。

2. 高度救命救急センター・ICUには輸血専用保冷庫があるが、それに一時保管してもよいか？

高度救命救急センター・ICUでは、同日に複数の患者の輸血が行われます。輸血専用保冷庫から、搬出する場合に取り違えをするリスクがありますので、手術室へ搬入する輸血専用保冷バッグのように、あらかじめ手元におく目的で使用するのは止めて下さい。本来「未使用製剤を輸血部へ返却する余裕がない」ため設置したものです。つまり、使用前の保管ではなく、未使用製剤を輸血部へ返却し、返却後他患者へ転用するための「返却ボックス」の役割であることをご承知おき下さい。

回収式自己血は、未使用製剤は他患者へ転用できませんから、破棄となります。ですから、回収式自己血を「明日使うから」

と、輸血専用保冷庫に入れるのは止めて頂きますようお願いいたします。

3. 医師が輸血施行前後にすべきことは？

輸血に関する同意取得、輸血のオーダー、輸血開始時の認証など、様々ありますが、よく抜けてしまうのが、「カルテ記載」です。輸血に限らず、特定生物由来製品である血漿分画製剤を使用する場合には、その根拠（使用理由）と、有効性の評価をすべき、となっています。それらは、カルテに記載しないと他者から分かりません。特定共同指導や病院機能評価などの外部審査等でも指摘される事項ですので、是非お願いいたします。記載例を以下に示します。

(根拠) : Hb 6g/dl であったので RBC 輸血
 (有効性の評価) : 4 単位輸血後 Hgb10g/dl なので、有効と判断

次期電子カルテで、アルブミン製剤は「輸血製剤」の運用に近づきます

来年(2020年)1月に導入予定の次期病院情報システム(いわゆる電子カルテ)では、アルブミン製剤は、「輸血製剤依頼」(図2)からオーダーしていただくこととなります。これは以前から推奨されている「アルブミン製剤の輸血部における一元管理」に対応するために、システム開発者の富士通が作成したもので、本院はパッケージをそのまま採用することになりました。

【図2】現在の輸血製剤依頼画面



現在は、必須入力事項である「輸血同意書の取得」が「未」の場合は、自動的に「輸血療法説明同意文書」が開きますが、アルブミンのみオーダーの場合は、別に「文書作成」から「特定生物由来製品使用説明同意書」を開いていただくことになるようです。これは、現在の「注射オーダー」と同様ですが、お間違えのないようお願いいたします。

また、実施の際にも「注射実施前」入力画面でなく、「輸血認証」画面で輸血製剤と同じように、二人で認証して頂くことになります。臨床現場では、アルブミンの使用前に一手間増えることとなりますが、認証漏れなどないようご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

